

科目名		救急救命処置概論Ⅱ			授業の種類	講義	講師名	
授業回数	15回	時間数	30時間	(2単位)	配当学年・時期	救急救命士科1年		必修・選択 必修
〔授業の目的・ねらい〕								
救急活動で使用する観察資器材の使用目的、適応、原理、構造、使用方法、注意点、評価について理解できる。 目的に応じて観察資器材を使用することが出来る。								
〔授業全体の内容の概要〕								
テキストに準じた導入講義後、観察資器材のデモンストレーション。								
〔講師の実務経験〕								
〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕								
救急活動で使用する観察資器材の使用目的、適応、原理、構造、使用方法、注意点、評価について理解できる。 各種観察資器材を使用してシミュレーション実習で実践することができる。								
回数	講義内容							
1	救急蘇生法							
2	救急蘇生法							
3	救急蘇生法							
4	傷病者搬送							
5	傷病者搬送							
6	在宅療養継続中の傷病者の処置							
7	資器材による観察(パルスオキシメーター、カプノメーター、聴診器、血圧計)							
8	資器材による観察(心電図モニター・体温計)							
9	救急救命士が行う処置(処置の目的と意義、気道確保、気道異物除去、口腔内の吸引)							
10	救急救命士が行う処置(酸素投与、人工呼吸)							
11	救急救命士が行う処置(声門上気道デバイスを用いた気道確保)							
12	救急救命士が行う処置(胸骨圧迫、自動式心マッサージ器の使用、電気ショック)							
13	救急救命士が行う処置(静脈路確保と輸液、アドレナリン投与)							
14	救急救命士が行う処置(体位管理、体温管理)							
15	救急救命士が行う処置(止血、創傷処置、固定)							
	定期筆記試験							

【 準備学習・時間外学習 】

【 使用テキスト 】

書籍名	著者名	出版社
救急救命士標準テキスト改訂第11版		へるす出版

【 単位認定の方法及び基準(試験やレポート評価基準など) 】

終講時試験。履修規定に準じる。